

都市化が進む新興国

ポイント① 新興国がけん引する世界の人口増加

国連の推計によれば、世界の総人口は2015年の73.8億人から2050年には97.7億人に増加する見通しです。総人口の推移を先進国と新興国に分けてみると、日本のように少子高齢化が進む国が少ない先進国では、総人口は、2015年の12.5億人から2050年の13.0億人へと頭打ちとなる一方、新興国の総人口は2015年の61.3億人から2050年の84.7億人へと大きく増加する見通しです。

今後、世界の人口の増加は新興国がけん引する見通しであり、人口の増加が、新興国経済の高成長を支える重要な要素のひとつであると考えられます。

ポイント② 人口増加とともに進む都市化

また、新興国においては、人口の増加とともに都市化が急速に進む見通しです。国連推計によれば、新興国において都市部に居住する人口は2015年の29.7億人から2050年には52.3億人へと20億人超増加する見通しです。

都市化率（都市人口の総人口に占める割合）でも、新興国の都市化率は2015年の49.0%から2050年には63.4%へと14%あまり上昇する見込みであり、2050年には新興国の人々の6割超が都市部で生活している計算になります。

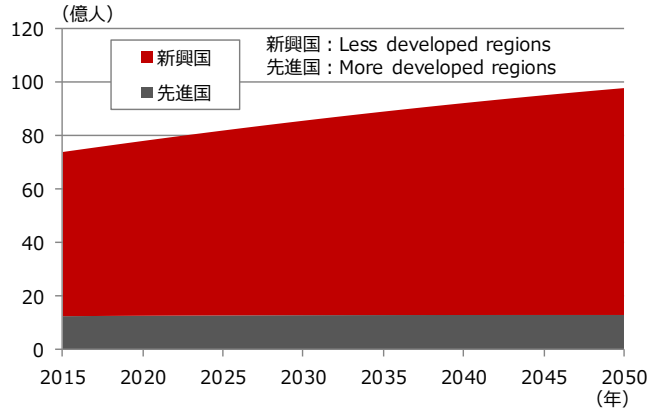
ポイント③ 高まる新興国の1人当たりGNI

図3は世界各国の都市化率と1人当たりGNI（国民総所得）の関係をプロットしたものです。都市化率の高い国ほど1人当たりGNIが高いという傾向がみとれます。これは、経済水準の高まりとともに、製造業や非製造業が多く立地して、農業よりも生産性の高い産業が集積する地域でもある都市圏に人口が集中するためと考えられます。図3の近似曲線に上述の新興国の都市化率を当てはめると、2015年（都市化率49.0%）に2,613米ドルであった新興国の1人当たりGNIは、2050年（同63.4%）には9,336米ドルと、約3.6倍になると試算されます。

都市化は産業構造の高度化や生産性向上を通じて新興国経済の成長率を押し上げるとともに、所得水準の向上という観点からは、旺盛な購買力を背景とする新興国の消費市場の拡大・高度化が、新興国企業のみならず、世界の様々な企業に収益拡大の機会を提供するものと考えられます。

図1：世界総人口の推移（国連推計）

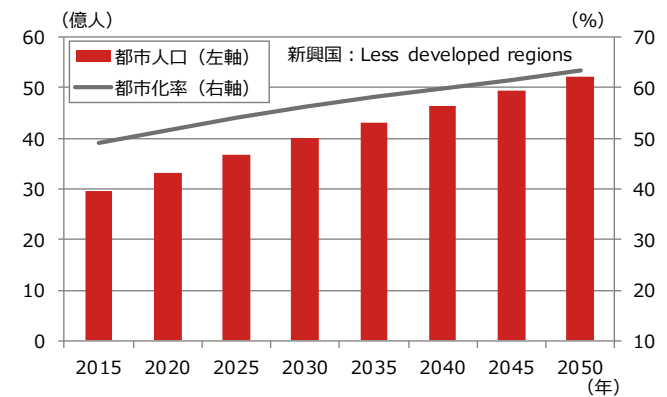
期間：2015年～2050年



(出所) 国連「World Population Prospects: The 2017 Revision」データより野村アセットマネジメント作成

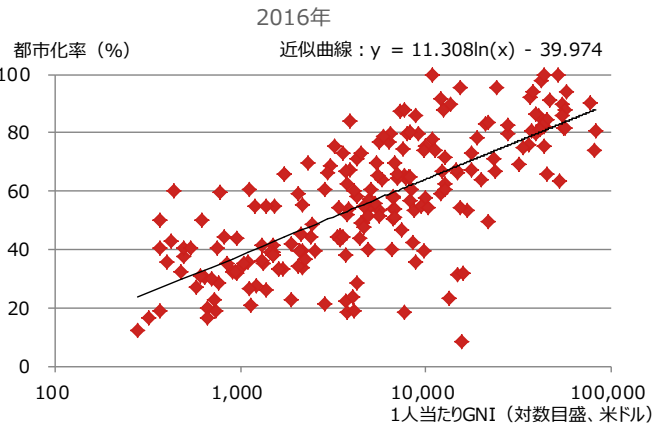
図2：新興国の都市人口・都市化率の推移（国連推計）

期間：2015年～2050年



(出所) 国連「World Population Prospects: The 2017 Revision」データより野村アセットマネジメント作成

図3：都市化と所得水準の関係



(出所) 世界銀行「World Development Indicators」データより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。